

6月15日、川越市観光協会から団体賞を受賞した。理由として、いもの品種・栽培・文化・歴史の研究など、そのユニークな活動が、川越を全国に向けていも文化発信基地にしているということである。

5 文化賞を受賞しての感想

「川越いも友の会」ができて以来、今年、初めて数々の賞を短期間に受賞し、私は同会の代表として、大変嬉しいと思っている。

私は、「川越いも友の会」ができる以前からさつまいもの文化活動をやっている。私は何となく、シャーロック・ホームズの著者であるコナン・ドイルのことを思い出す。医学博士のイギリス人、ドイルは短編小説を書くのが好きで、シャーロック・ホームズの話のほかに、様々な物語を書いた。

ドイルは自分の患者があまりいなかったので、文学を書くことの方に興味を持つようになった。

1887年に、ドイルの初めてのシャーロック・ホームズを扱った推理小説が出版された。次は1890年に出版された。少しずつ人気が上がって、1891年7月から、毎月『ストランド』誌

に載せられた。そこで、1893年12月、『ストランド』誌のホームズのシリーズの最後の話で主人公ホームズが死んでしまった。そのシリーズが大変人気があったにもかかわらず、彼が主人公を死なせてしまったのは、面白い。それは他に書きたいものや活動があったので、ホームズについて終結させてしまった。けれども、ホームズがなくなったとき、読者から反響が大きく、結局、完全にやめることができなかった。

他の活動などで頑張ってみたが、ドイル自身、ホームズのことでは有名になっていたため、1893年以降は、又、ホームズの話を書き始めたようである。つまり、現在、コナン・ドイルといえば、すぐ、シャーロック・ホームズを連想する。

ドイルの例は、「川越いも友の会」と似ている。それは、「川越いも友の会」のほとんどの会員の仕事はさつまいもとそれほど関係ない。私の場合でも、大学で英語を教えている。

同会が始まったときは、秋がさつまいもの収穫時期なので、それ以外の季節のいも活動

常識法話

◆ 夫 婦 異 姓 ◆

女性が、社会的進出を図った余波であろうと思うが、近く婚姻法を改正して、夫婦別姓、つまり、女性は旧来の姓をそのまま名乗ることができるようにするということが云々されている。

今までは、「籍を入れる」ということは、男の姓を名乗ること、それが「晴れて、夫婦になった証拠」であったが、これからは、異姓ではあるが、正式に婚姻した仲だということを、どうして立証するかが、大きな

社会問題となろう。

さし迫って困るのは、ホテルのチェックインで、異姓ではあるが、正式の女房なのだというトラブルが発生するだろう。そのためには、常に戸籍謄本を用意しておいて、いつでも、どこでも提示できるように準備して置くことが必要となろう。

有名になりすぎた女性を女房にする夫婦は、新聞に3回以上広告して、異姓夫婦となることを告知する必要があるかも知れない。どうして、こう云うことを考えるか分からない。